

16

行政機關ノ改廢ハ豫算ニ左右セラルルモノ多シ、勿論大局ニ於テハ必要ナル機構ニ關スル豫算ハ承認セラレ不必要ナルモノニ對スル國費ノ支出ガ差控ヘラレタルハ疑フベカラズト雖モ、從來豫算ノ査定ガ事務内容ノ細目ニ迄立入りタル爲、自ラ名目ノ適否、説明ノ巧拙ニ左右セラレ豫算要求ノ技術化ヲ來セル傾向アリ、之ガ爲事務ト經費トハ必シモ完全ナル均衡ヲ保タズ、機構ノ合理化モ此ノ點ニ於テ阻止セラルル憾ナキニ非ズ。之ガ爲ニハ各省豫算ノ査定ガ大局的見地ニ於テ爲サルル様方針ヲ改ムルト共ニ他方行政事務審査機關ノ活用ヲ圖ルベキモノトス。

四、各省ノ問題

イ内閣

内閣ニ強力ナル企劃統轄機關ヲ設ケテ行政ノ綜合統一ヲ圖ルノ必要ナルハ一般ニ認メラルル處ニシテ總理大臣ノ權限強化、企畫院總裁ノ無任所大臣制、企畫院ノ擴充強化ハ何レモ此ノ要

求ニ出ヅルモノナリ。其ノ際、人事、豫算、行政監査、情報等ニ關スル機關ヲモ内閣ニ設置スルノ要アルコトハ一般ニ異論ナシト雖モ之等チ一ノ總務機關内ニ纏ムルヤ又ハ其ノ或ルモノナ別個ノ官廳トスルヤ、之等ニ如何ナル程度ノ權能ヲ認ルルヤ、既存關係廳トノ關係ヲ如何ニ解決スルヤ等々尙研究ヲ要スル問題アリ。一右ニ關シテハ別途研究案「内閣行政機構ノ改編」參照

ロ 國防省（軍務省）

陸海軍ノ現状ヲ改善シ併セテ國防行政ノ綜合強化ヲ圖ル爲陸軍省及海軍省ヲ合同シテ國防省ト爲スベシトノ論アリ。之ガ實現性ノ有無ハ一ニ陸海軍ノ内部事情ニ係ルト雖モ我國ノ如ク四圍ノ狀勢^{何レヲ主トモ}上^{何レヲ從トモ}爲シ難ク海陸共ニ強大ナル軍備ヲ要スル場合ニ於テ國防大臣ヲ陸海軍ノ何レヨリ出スベキヤニ就テモ直ニ大ナル困難ニ逢着スベシ。又他面ニ於テ、之ヲ合一スルコトニヨリ得ル所尠ナカラザルノミナラズ、他省ノ合同ヲ相當規

模ニ進メテ數個ノ省ノミヲ殘ス場合ニ於テハ均衡上陸海軍省モ合併セザルヲ得ザルベク、要ハ方針ノ問題ニ歸着ス。

ハ治安省—警察省—

内務省ノ警察行政ト司法省ノ檢察行政トヲ合一シテ治安省ニ包括セシムルコトハ合理的ナル一案ナリトス。内務省ノ神社行政ガ文部關係ノ機構ニ包容セラレルコトハ論無ク、地方行政ハ個別的ニハ夫々關係各省ノ區處ニ委ヌルモ別段ノ支障ハ生ゼズ、唯此ノ場合ニ於テハ地方行政ノ統轄機關ヲ内閣ニ設クルヲ要スベシ。土木行政ハ保安的見地ニ於テノミ治安省ニ所管セシメ道路港灣ニ關スルモノハ交通省ニ移管シテ可ナリ。司法省ヨリ檢察事務ヲ分離スルコトハ特別ノ問題存セザルモ其ノ際殘餘ノ裁判行政ヲ如何ニスルヤハ大イニ研究ヲ要ス。即チ

1、檢察ト裁判トノ關聯性ニ着目シテ共ニ之ヲ治安省ニ移管ス

ルヤ

1930

2、裁判所ノ獨立ヲ尊重シテ大審院長ニ之ヲ鞅掌セシムルヤ
3、檢察事務ヲ除キタル司法省ヲ現在ノ儘存置スルヤ
4、裁判事務ヲ内閣ノ一機關ニ移シ總理大臣ノ所管トスルヤ
ノ四方法ガ考ヘラルモ、ハ實質上ノ妥當性ヲ缺キ、2、ハ大審院長ガ内閣ニ列スル非ザレバ裁判所行政ノ政治的責任者ヲ缺クコトトナリ、3、ハ一省トシテ獨立セシムル事務分量ニ達シ難キ憾ミアリ、4、ハ特殊ノ行政事務ニ付總理大臣ガ所管大臣トナルノ形式的難點ヲ有ス。右ノ内比較的合理性ヲ有シ且實現ノ可能性アルハ3、及4、ニシテ若シ一省ノ存續ガ容認セララルナラバ、例ヘバ法務省ヲシテ所謂裁判行政事務ノ外、現在ノ法制局ノ擔當スル法制事務ノ全部又ハ一部（官制、官吏、法規等内部的ノモノヲ除キ）ヲ所管セシムルモ一案ナリ。

ニ文化省（文政省）

現在文部省ノ擔當スル教育、學術ニ關スル行政ヲ一層活氣ア

ラシメ且指導的ナラシムル様之ヲ刷新スルガ爲ニハ機構上ニ於
テモ考慮スベキ點アリ。即チ文部行政ヲ從來ノ如ク單ナル學校、
寺院相手ノ事務ニ留メズ更ニ國民全般ノ教育、體育、學術、藝
術、信仰其ノ他所謂文化生活全般ニ亙リ其ノ所管分野ヲ擴張ス
ルコトニヨリ大局的適確ナル文化行政ノ實施ヲ期待シ得ベシ。
更ニ徹底的ニハ國民ノ知的向上ノミナラズ物質的厚生ニ關スル
行政モ茲ニ統合シ廣ク國民文化生活ノ指導向上ヲ圖ルニ於テハ
視野ノ擴張ノミニ依ル效果モ蓋シ尠シカラザルベシ。此ノ意義
ニ於テハ現在ノ文部省ヲ中心ニ内務省ノ出版警察、興行警察、
遞信省ノ放送行政ヲ包括スルノミナラズ厚生省、情報局ノ事務
ノ全部ヲ移管シテ大文化省ヲ設置スルハ必ズシモ過當ノ案ト爲
スベキニ非ズ。文部行政沈滞ノ主因ナリトセララルル人事問題モ
斯クシテ初メテ其ノ特殊固定化ヲ脱却シ刷新ノ實ヲ舉グルヲ得
ベシ。本省ガ廣ク國民文化ノ指導ニ任ズル場合ニ於テハ保守モ

不可、思ヒ付キ行政モ不可、偏セズ四ハレズ大局ヲ達識スル有能ノ人格ヲ要求スルコト他ノ何レノ省ヨリモ大ナリ。機構ト共ニ行政ノ實質、人事ノ重要性ヲ特記スル所以ナリ。

ホ經濟省（産業省）

最近ノ行政機構改革ノ論議ハ殆ド總ベテガ經濟行政ノ統合ヲ主タル動機トシテ出デタルモノナルガ、其ノ結論スル所ハ大凡三様三分タル

1、經濟行政ニ關スル限り總ベテ之ヲ經濟省ニ統一シ商工、農林ハ勿論、大藏省モ之ニ合シ更ニハ鐵道、遞信兩省ヲモ統合セントスルモノ。

2、農林、商工兩省ヲ産業省ニ合一セントスルモノ。

3、農林省ハ農林食糧省トシテ別存セシメ大藏省ノ一部（金融、關稅、專賣等及遞信省ノ一部（電氣、造船）ヲ商工省ニ合

并セントスルモノ

1933

經濟行政ノ統一ノ見地ヨリスレバ、ハ最モ徹底セル案ナリト雖モ此ノ場合ニ於ケル經濟省ハ之ト併立スル他ノ省ヲ如何ニ統合スルモ其ノ量ニ於テ、重要性ニ於テ恐ラクハ比肩スルモノナカルベク、經濟大臣ハ副總理格トシテ實質上他ノ國務大臣ノ上位占ムル如キ状態ヲ生ズル可能性アリテ國務大臣ノ均衡ノ問題ヲ生ズルノミナラズ、先ニ述ベタル量ノ問題ニ付テ考慮ヲ要スル點アリ、然レドモ多少ノ缺點ヲモ厭ハズ統合ノ目的ニ徹底セントセバ、他ノ省ヲモ能フ限リ少數ニ之ヲ纏メ且、鐵道、遞信兩省ニ於ケル企業事務ハ別ニ經營廳ヲ設立シテ之ニ移シ、大藏省ノ主計事務ヲ内閣所管トスレバ必ズシモ不可能ノ案ニハ非ザルベシ。

一般ニ最モ贊同サレ易キハ、ノ農林、商工合併案ニシテ兩省對立ノ弊ガ統制經濟時代ニ入りテ一層強ク認識セラレタル結果ナルモ、之ニ對シテハ、農林行政ノ特殊性ヨリ相當ノ異論アリ

即ち農山漁村ノ前資本主義的經濟ヲ一般商工經濟ト共ニ同一官
廳ニ於テ所管スルトキハ弱者自ラ強者ノ犠牲トナルノ結果ヲ生
ズベシトス。蓋シ一理ヲ認メ得ルモ凡ソ今後ノ綜合經濟ニ於テ
ハ機構上ノ獨立、政治力ニ依ル對抗ニ依ツテ特定領域ノ利益ヲ
擁護セントスルハ最モ舊套ヲ追フノ方式タルヲ免レズ、農林行政
飛躍的發展ノ最モ必要トセラルル今日、保守的機構ノ革新ガ農
村ニ對シ不利ナル影響ヲ與フルトハ信ジ難ク、寧ロ所管廳ガ兩
方面ノ事情ニ通曉シテ最モ適確公正ニ處置スルコトヲ期待シ得
ベシ。唯、産業省ノ設立ハ農林、商工兩省ノミナラズ少クモ電
氣、造船、關稅、專賣等ヲ包括スルニ非ザレバ趣旨徹底セザル
ヲ以テ、之等ヲ合一スルトキハ相當大規模ノ官廳トナリテ或程
度經濟省案ニ準ズル問題ヲ提起スベシ。
他省ノ關係ヲ論ゼズ部分的機構改革トシテ最モ實現性アルハ、
案ニシテ既ニ農林、商工兩省間ニ於テ一部調整セラレタルモノ

1935

モアリ、其ノ他ニ付テモ格別ノ支障ヲ生ゼズ、唯産業行政問題ノ主眼タル農林、商工ノ根本的調整ニ觸レザルガ爲不徹底ノ憾ミヲ免カレズ、尙實際問題トシテハ大藏省關係ニ於テ爲替事務ハ當然移管スルモ金融全般ヲ如何ニスルヤ、又關稅、專賣ヲ移管シタル場合ニ於テ一般稅務行制トノ關係如何ニ付考慮ヲ要ス。結論的ニハ金融、稅務ニ關スル一般的、原則的行政事務ハ大藏省所管トシ、爲替許可、關稅賦課等物資ト關聯セル面ハ總ベテ商工省ノ主管トスルヲ可トスベシ。此ノ場合ニ於テハ商工省ノ保險及取引所ニ關スル行政ハ當然大藏省ニ移管スベキモノトス。尙之ト關聯シテ貿易省問題アルモ外務省問題ヨリ貿易省設置論ノ一應終熄シタル如ク今日ニ於テハ特別ノ關心ヲ拂フベキ重要性ヲ認メ得ズ、貿易省ノ設置ハ大體ニ於テ、現在ノ經濟關係各省ノ存續ヲ前提スルモノニシテ貿易省ヲ設置スルモ貿易行政ノ徹底的一元化ハ望ミ難ク却ツテ二重行政、三重行政ヲ結果スル

ノ虞アリ。之ヲ設置セザルモ他ニ有效ナル貿易改善方途ナキニ非ズ。殊ニ世界經濟プロツク化ノ傾向ハ我國貿易政策今後ノ動向ニ付再檢討ヲ要スルモノアリ。此ノ際ハ寧ロ産業省或ハ經濟省ガ綜合經濟的立場ニ於テ貿易行政ヲモ擔當スルヲ適當トス。

へ交通省

産業省論ハ必ず交通省案ヲ伴フモノナルガ本問題ハ實質的の必要性ヨリモ寧ロ多クハ省務ノ均衡維持ヲ根據トスルモノト見ラレ、鐵道、遞信兩省ノ業務ハ大部分輸送又ハ通信ニ關スル經營事務ニ依ツテ占メラレ爾餘ハ等シク交通行政ノ觀念ニ包攝セラレルモ兩者必ず合一セザルベカラザル實質上ノ必要性ハ比較的乏シ。然レ共兩者ヲ分離スルノ積極的理由ハ勿論存セザルヲ以テ合同ヲ不可トスル事情ハ存セズ。問題ハ寧ロ之ニ包攝セラルベキ道路行政、河川行政、港灣行政ト土木警察行政、稅關行政トノ關係ニ在ルモ、現在之等ガ二省、三省ノ交渉事項ニ屬スル

ニ鑑ミレバ交通上ノ見地ヨリ之ヲ交通省ニ統合シ警察其ノ他ノ
關係ニ付テハ關係省ト協議スルコトトスルハヨリ適切ナル方法
ナリト考ヘラル。

尙交通省設置ノ場合ニ於テハ陸上、海上、航空ノ交通行政事務
ヲ主トシ、鐵道、通信等ノ經營業務ハ鐵道院或ハ遞信廳トシテ
內閣ニ附置スルカ、少クトモ外局トシテ省外ニ置クナ可トス。

ト外政省

前述ノ貿易省問題ト人事問題トヲ除キ外務省自體ガ機構改革
論ノ俎上ニ上リタルコトナシト雖モ、外務行政ガ國內諸般ノ政
策ノ綜合的集積的對外活動ニ關スルモノタルニ稽フレバ外交ノ
根本ハ國策ノ綜合ニ在リ從テ外交政策ノ樹立ニ付テハ內閣ガ之
ヲ掌握スベシトノ議論ハ起リ得ベシ。然レドモ外交ノ技術的特
性ニ鑑ミレバ之ヲ所管スル一省ヲ存置スルヲ穩當ノ策トスベク
茲ニ拓務省ノ主管スル外地行政ヲ統合シテ外政省ト爲シ、他方

對外行政ト對內行政トノ有機的結合ヲ圖ル方法ヲ講ズルヲ可トス。例ヘバ外交政策ノ根本方針ハ內閣國務院ガ之ヲ主管シ、國內政策トノ聯絡ノ爲ニハ外交分野ノ門戶開放主義ヲ採リテ彼此疏通ヲ爲ス等改善ノ餘地ハ多ク存スベシ。

拓務省ノ事務ハ對外行政ト謂フヨリ寧ロ對內行政ニ屬スルモ、拓務大臣ニ朝鮮總督ノ監督權ヲク、關東州行政亦駐滿大使ノ管下ニ屬スル現状ニ於テ、拓務省ガ各省統合ノ際第一ニ整理セラレベキ運命ニ在ルハ否定シ得ズ。之ヲ拓務局（又ハ院）トシテ內閣ニ置クヤ或ハ外務省又ハ內務省ニ併合スルヤハ研究ノ餘地アルモ、事務及將來ノ東亞政策ヲ考慮スレバ外務省外務省ヲシテ之ヲ統轄セシムルハ敢ヘテ不當ニ非ズ。唯外地就中朝鮮（最近ハ臺灣總督ノ權限強化論モアリ）ノ統治ガ國務大臣ノ制肘ヲ受ケザル如キ現状ヲ適當トスルヤ否ヤハ一ノ問題ナリ。

チ内政省（地方省）

27

先ニ治安省ノ項ニ於テ觸レタル如ク内務省ヨリ治安警察及神社行政ヲ分離スル場合ニ於テ何等カノ處置ヲ要スルハ地方行政ナリトス。即チ

- 1、地方管理廳トシテ内閣ニ之ヲ置クカ。
- 2、厚生省ト合シテ従前ノ内務省ノ形態（警察、神社ヲ除キ）ニ還元スルカ。

3、別ニ内政省又ハ地方省トシテ獨立存續セシムルカ。

ノ三案ヲ考へ得ベシ。地方首腦部ノ人事ハ人事廳之ヲ主管セバ地方行政ノ統轄事務ハ現在ノ地方局ノ範圍ヲ出デズ。特ニ大政翼贊會ニ關スル事務一選舉ニ關聯ス一ヲ内閣所管トスル最近ノ閣議決定ノ趣旨ヲ想起シ且地方行政ノ綜合性ヲ考フレバ、ハ比較的首肯シ得テラル案ナルモ總理大臣所轄ノ事務ヲ徒ニ多カラシムルノ難アリ。2、ハ安易ナルモ地方行政ト厚生行政トノ必然的聯關性乏シク事務刷新的色彩ヲ缺キ、3、ハ外地行政ヲモ包括

セバ辛ブジテ一省トシテノ事務分量ニ達スルモ尙他省ニ比シテ量的ニ遜色アリ。

尙且、案ヲ探ルトキハ府縣ト中央官廳トノ中間ニ整頓ノ州廳又ハ地區廳ヲ置キテ地域のニ統轄スルノ方法ヲ講ズルニ非ザレバ地方管理廳ハ事務ノ煩瑣ヲ免レ得ズト雖モ州又ハ大地區ノ制度ハ現在ノ地方制度ノ根本的檢討ヲ俟タズシテ單純ニ之ヲ是認シ難シ。即チ斯ノ如キ機關ヲ設クルトキハ現在ノ稅務監督局、營林局、鑛山監督局、鐵道局、遞信局等ノ地方官廳トノ關係モ一考ヲ要シ、之等ヲ總ベテ包攝セザルモ經由官廳ノ增加ハ事務ノ滯滞、府縣知事ノ權限縮少等ノ事實ヨリ生ズベキ反對論モ豫想セラル。他方ニ於テ產業行政ノ地域の綜合、委權ノ爲

地方官廳

（又ハ產業局）設置ノ要求モアリ、府縣廳ノ事務内容ニ付テハ根本的研究ヲ要ス。唯將來地方人事ガ內務省ノ手ヲ離レテ人事廳ニ一括セラレ關係各省何レモ適當ノ人物ヲ地方廳ノ當該地位